

総務委員会行政視察報告書

日 時	平成25年10月22日（火）午後1時から午後3時まで
視 察 先	兵庫県赤穂市
視 察 項 目	行政評価システムについて
視 察 者	委員 長 富田一太郎 副委員 長 伊藤正治 委 員 大島大東、中村千恵子、島崎昭三、向山孝史、黒川親治
視 察 内 容	<p>行政活動の基礎的単位となる施策事務事業を対象に、事後評価を行う行政評価システムに取り組みされている兵庫県赤穂市を訪問し、その基礎的な考え方及び評価作業方法について視察を行った。</p> <p>同市では、行政活動の基礎的単位となる事務事業を対象として事後評価を行う行政評価システムの取り組みを進めている。行政評価システムとは、行政活動の目的を明らかにし、その活動についての成果・指標などを用いて妥当性、有効性、効率性を評価するもので、同市では、このシステムを行政マネジメントサイクルの中に位置付け、PDCAサイクルの活性化を目指している。</p> <p>限られた財源や人員の中で、事業の予算の執行状況や進捗状況という観点からだけではなく、目的に対する成果や達成度の観点からも評価し、事業の統廃合を含め事業費の削減を図るとともに、将来に向かって継続、現状、改善、終了、廃止などの効果の継続を図り、効率的・効果的な行政運営に努めている。また、事業をわかりやすい指標を用いて評価し、その成果やコストを公表することにより行政の透明性の向上を図るとともに市民への説明責任も果たしている。</p> <p>課題としては、事業が市民にどれだけの価値をもたらし、市民が納めた税金がどのように使われているのか、成果・効果がどれくらいあるのかを市民に対し、説明していく方法について、検討していかなければならないことが挙げられる。</p>
所 感	<p>行政は、各施策事業について効果的、効率的に実施されているかを検証する必要がある、効率的な行政運営を行うためには職員の意識改革や行政の透明性の確保とその説明責任を果たす必要がある。その面では、この行政評価システムの導入は評価できる事業である。評価方法については、内部評価によって各事業に対する改善改革事業優先度、市民ニーズの満足度などの認識を深めることができる反面、自らが選んだ事業（約400事業）を自らが評価するという矛盾が今後の課題と考える。</p> <p>また、外部評価についてはホームページで評価結果を公表しているが、市及び外部評価委員の意見は記載しているものの、説明はしていないとのことであった。</p> <p>評価結果については、事業費を金額表示することなどで、数値化できるものは数値化すると、さらにわかりやすくなると思われる。なお、この評価結果は、議会へは報告のみであり、本来の議会が持つチェック機能の発揮につながらないという疑問と担当者の事務量増大に伴う負担の増、評価結果を活用できなければ、評価自体が目的となってしまうことも大きな課題と考える。</p> <p>しかし、各事業に対して、点検評価をすることの重要性・必要性を感じたのも事実である。本市においては、総合計画に基づく組織別計画、知多市行財政改革プラン2013などが進められており、市民生活に直接影響を及ぼす重要な事業を行っていく上で、何のために行うのかをしっかりと検討し、市民目線に立った目的意識の整理と、検証体制が重要であると再認識した視察であった。</p>

総務委員会行政視察報告書

日 時	平成25年10月23日（水）午前10時から正午まで
視 察 先	山口県周南市
視 察 項 目	わかりやすい予算解説書作成事業について
視 察 者	委員 長 富田一太郎 副委員 長 伊藤正治 委 員 大島大東、中村千恵子、島崎昭三、向山孝史、黒川親治
視 察 内 容	<p>周南市では、市の財政に関心を持ってもらうため、具体的な事業と予算の内容を、市民にわかりやすく掲載するなどの工夫がされた予算解説書の作成に努めている。</p> <p>本市においても厳しい財政状況を市民に理解してもらうこと、また、歳入身の丈に合った財政規模にするためには、市民の理解と協力が不可欠であることから、そのツールとなり得るこの事業の具体的な取り組み状況や、成果、また今後の課題などを視察した。</p> <p>平成19年5月の市長選挙で、前市長が「わかりやすい予算書の作成」を公約に掲げ当選し、就任後にホームページ掲載用のわかりやすい予算書作成を指示した。そこで、北海道虻田郡ニセコ町の「わかりやすい予算書」を参考に、税金の使い方を、中学生から大人までがわかりやすく理解できるを前提に、予算解説書の作成に取り組んだとのことである。</p> <p>当初の目的である全戸配布が課題となっていたが、25年度から市の広報という形で全戸配布を実現し、行政評価や議会からも一定の評価を得るが、一般市民に対しての事業と捉えれば、効果は疑問であり、見直しが必要だと思われる。</p> <p>費用対効果についても疑問が残るが、情報発信の取り組みとしては、効果はあったと判断しているとのことであった。</p>
所 感	<p>わかりやすい予算解説書作成事業は、前市長が選挙公約として掲げたものであり、当初は力が入った事業であったと思われる。発行された予算解説書（Budget）を見ると、写真やイラスト、読みやすい文章、グラフなどを活用した金額表示など、大変わかりやすく非常に親しみやすい解説書となっていた。作成にかかわった担当職員の熱意や苦勞が伝わり、事業そのものの発想はとてもよいと感じた。また、市民目線での作成に努められており、年度ごとに内容やページ数を変更するなどの見直しを経て、フリーペーパーとして発行し、かつ、広告掲載を公募し収入を確保するなどの手法も新しい発想であり、大変参考となった。</p> <p>しかし、年を追うごとにボリュームが減り、また、そのことによって一般市民の感心もますます薄くなってきているようで、解説書をつくること自体が目的になってきているように感じられるのは残念である。</p> <p>本市がこのような解説書を導入する場合、事業内容に多くの課題があり必要性は理解しつつも職員の労力と費用対効果のバランスを考慮するなどの総合的な検討が必要である。周南市が作成した解説書は、目新しさはあっても市民のニーズに応えるという点を考えると同様な形での導入については難しいと思われるが、市民に予算内容を知ってもらい、どの事業に税金がいくら投入されているかを周知することは説明責任を果たす上でもとても重要であることを再確認できた有意義な視察であった。</p>